

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

12242

特別陳列事業

[長期総合計画]

分野別目標	2	住みたいと選ばれる魅力があふれるまち
政策	5	郷土に誇りと愛着を育む文化・スポーツの振興と生涯学習の推進
施策	3	文化財の保護・活用
取組方針	2	文化財の活用

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	総務費		
	項	文化スポーツ費		
	目	博物館費		
	大事業	博物館事業		
中事業	特別陳列事業			

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel 博物館 近藤 壮 423-0003
事業実施の根拠法令	博物館法・文化財保護法・和歌山市立博物館条例		関連課	

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	収蔵資料をひろく市民に紹介する。		常設展では紹介しきれない収蔵資料を中心に公開し、和歌山の歴史や文化を市民に紹介するとともに、小学校の社会科の単元に対応した展示を行い、児童の教育への向上に役立てる。			
事業内容		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
		紀州藩主から江戸幕府8代將軍に就任した徳川吉宗に関する資料を展示し、「明君」と呼ばれた吉宗と紀州藩を紹介する。	館蔵資料を中心に「紀州の風景」を春に開催、小学校の社会科授業の一環として「歴史を語る道具たち」を冬に開催する。	春は館蔵資料を中心にした展覧会を開催し、夏に本市にかかわりの深い先人をテーマに企画展を開催し、冬には小学生の社会科の授業に合わせ展覧会を開催する。	春は館蔵資料を中心にした展覧会を開催し、冬には小学校の社会科の授業に合わせ展覧会を開催する。また夏には新たに美術に関する展覧会を開催する。	春は館蔵資料を中心にした展覧会を開催し、冬には小学校の社会科の授業に合わせ展覧会を開催する。また夏には新たに美術に関する展覧会を開催する。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	246	272	206	208	206	220	2,147	0	2,147	0	
伸び率(%)	△8.2%	1.5%	△16.3%	△23.5%	0%	5.8%	942.2%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	2,782	2,782	2,792	1,994	3,437	1,279	1,599	0	1,599	0
	正規職員以外	885	778	725	949	1,291	960	548	0	548	0
	小計	3,667	3,560	3,517	2,943	4,728	2,239	2,147	0	2,147	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	1,059	0	1,059	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
一般財源(税等)	246	272	206	208	206	220	1,088	0	1,088	0	
所要人数(人)	正規職員	0.35	0.35	0.35	0.25	0.43	0.16	0.20	0.00	0.20	0.00
	正規職員以外	0.33	0.29	0.29	0.38	0.52	0.28	0.29	0.00	0.29	0.00
主な予算内訳	印刷製本費134千円等										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
特別陳列開館日数		日	目標値	83	83	83	83	83
			実績値	77	86	87		
			達成度(%)	92.8%	104%	104.8%	0%	%
特別陳列入館者数		人	目標値	3600	3600	3600	3600	3600
			実績値	5634	5102	5945		
			達成度(%)	156.5%	142%	165.1%	0%	%
成果指標			目標値					
			実績値					
			達成度(%)					

4 事業の評価

評価基準				
[妥当性]事業のニーズはあるか	○	増加している		横ばい
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか	○	達成している (90%以上)		おおむね達成 (70~90%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある
[効率性]事業費を抑制できるか		できない	○	制約はあるが可能性はある
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない
				減少している
				見直しが必要
				市が行う必要性は薄れている
				緊急性は薄い
				できない
				達成していない (70%未満)
				貢献度は低い
				できる
				見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	本事業は、市民からの寄贈品など取蔵資料を元に開催する事業である。また、小学校の社会科の単元に対応した教育プログラムを用意し、小学校の団体の受け入れを行っているが、その対応には、様々な知識が要求される。数少ない学芸員が時間をやりくりして対応している。
見直し・改善内容	美術展示など、今後は市民のニーズに合った展示内容も盛り込んでいくべきである。